

「ご挨拶」



牧師 森田幸男  
(日本キリスト教会 大阪北教会)

「和解の使者としてのキリスト者」

以前にも本紙上で紹介させて頂いた事ですが、浪速教会「愛の家」には毎年、韓国の諸教会から幾組かの研修チームが来訪されます。そして日程が合えば北教会の中之島公園での炊き出しにも参加して頂きます。そのような訳で、私達は日本にいながらにして、韓国諸教会の若い兄弟姉妹との交わりの機会に恵まれております。誠に有難い事でありませぬ。

7年前の2月の事ですが、韓国・大邱の三徳教会の研修チームの兄弟姉妹十数名の来訪を受けました。殆どが大学生でしたが、その中に一人12歳の少年ヨセフ君がいました。数時間を共に過ごしての別れ際、引率の先生がこう言われました。「ヨセフ君は『僕が死んだら、北教会の納骨堂に納めてほしい』と言っております」と。その言葉を残してヨセフ君は帰って行きました。今は大学生になっている事と思ひます。

私はこの思いがけない言葉に驚くと共に何とも言えない感動を覚えました。「ヨセフ君は大きくなったら宣教師として日本に来るのだろうか。」或いは「ヨセフ君はこの教会に自分の帰るべき故郷を見出したのだろうか。」(というのはヨセフ君がそう言ったのは、詩編23篇をテーマにしたステンドグラスの施された納骨堂の前だったからです。) いずれにせよ、その日以来、ヨセフ君は、日韓の歴史の溝を埋めてくれる和解の使者として、私には忘れ得ない存在となりました。

今年11月3日、北教会の聖日礼拝において使徒言行録9章に記されている「サウロの回心」の記事を通し、御言葉を聞きました。それは、「キリスト者は、何処にあるにせよ、主イエス・キリストによる和解の使者として遣わされているのだ」との示しであります。そしてこれが、主イエス・キリストによって赦しと和解を与えられた、全キリスト者の無二の使命である事を強く認識させられました。

浪速教会は開設以来22年余、神様の祝福を受け、和解と共生の道を歩んで来られました。それ故に今日まで支援と協力をされて来られた諸教会の皆さまと共に、「愛の家」の働き、主の御業、和解と共生の道に、一層強く、深く与かって行きたいものと改めて思わされております。

「ご挨拶」



牧師 許伯基  
(在日大韓基督教会・関西地方会副会長  
京都南部教会)

「在日大韓基督教会の宝物」

在日大韓基督教会という教団で育ち、今では一人の牧師としてそれに仕える者として、私が心から自慢に思うことがいくつかあります。まず一つ目は、この日本社会の中に「小さくされた者たちの集う教会」として立てられ、小さく弱いながらもその歴史を脈々と引き継いで来たこと。二つ目は社会的使命を負った教会として、日本のエキュメニカル運動の中で、他の教団に「新しい視点への目覚め」を与え続ける存在であり続けてきたこと、そして浪速教会「愛の家」を持っていることです。イエスの公生涯の時代から「小さく疎外された者たちとともに生きる」ことを運命づけられた教会が、その使命を観念化し、実際には失い続けていく中で、最も疎外され、無視されている人々に実際に仕えるこの教会の働きが、いかに力強く光を放っていることでしょうか！ 私たち京都南部教会では三年前から子ども食堂を運営していますが、言い出しっぺの私の個人的な着想は、実は「愛の家」から来ています。ご存じのように初代教会はその大事な本来的機能の中に「貧しく弱い者たちと、物理的に分かち合う」というものを持っていました。この現代においてそれを愚直なまでに実践する浪速教会に、私は今でも大きな敬意と憧れを持っています。「同じように、人々に仕える活動を、教会の宣教活動の軸としたい」という思いが、今でも週1回の地域への奉仕の最も大きなモチベーションになっていると言っても過言ではありません。

超高齢化に伴う教会の消滅があちこちで危惧されていますが、教会が弱っているのは実は別の理由によるものだと私は感じます。それは「ミッション」の不在です。人と世に仕えることを忘れ、自己保存に汲々となった教会は、神の目には存在意義を失っています。教会がキリストの十字架を背負い、神の愛を世に示す仕えを担っているならば、必ずや神はその活動を支えられ、働き人を送られます！ これからも浪速教会が日本のキリスト教界におけるインスピレーションの源であり続けることを信じ、祈り続けます。

## 宣教チームの訪問

今年の夏も海外からの宣教チームが日本伝道のため、西成の貧しく一人寂しくされている人たちに仕えたいという思いで来てくださいました。数日間の泊りがけ・集会や炊き出しだけ参加など色々なチームがありました。チョンジュボクテ教会、済州ソナン教会、富川ウンチョン教会、大邱ナムソン教会、ソウルヨンド教会、オンヌリ教会、スヨンロ教会、マサンシンガン教会、大邱ソナン教会、チュサラン教会、韓神大学神学大学院研修生チーム、オ・タンビ姉、シンガポール放送チーム（オランダからも含む）（各チーム1～30名くらい）です。今年は韓日の政情が悪い中ですが、イエス・キリストの愛と赦しの中にある私たちは政情に左右されずに、御国のための霊的働きに燃える夏を過ごしました。信仰と勇気をもって日本へ来てくださった韓国の方々に心より尊敬と感謝を申し上げます。また日本キリスト教会青年会と大阪女学院リトリートが国内から訪問してくださいました。普段なかなか交わるチャンスがない彼らと礼拝や配膳を共働することは、今、日本に共に生き、未来を共に担っていく者として意味があるなと思いました。「礼拝堂にドラムやギターがあって礼拝前に30分も賛美をするのが自分にとって新しい」「主日の午前・午後の2回の礼拝と配膳・片づけの後は老若男女を問わずにみんな座ってコーヒーやお茶菓子を食べながら団欒のひと時がある、これは本当に家族のようだ」とお話しされていたのがとても印象的でした。知らず知らずのうちに浪速教会の良い特徴が築かれている事に逆に気づかせていただきました。



賛美



賛美



「歓迎します」「祝福します」

## 木曜伝道集会・日曜伝道集会

奥田昭牧師（ハルヤ サンライズ チャペル）、朴栄子牧師（豊中第一復興教会）、金景淑牧師（ホサナ教会）、全聖三牧師（布施教会）の先生方が毎週木曜日毎に順番に説教奉仕をしてくださいました。金鐘賢牧師（浪速教会）は毎週日曜日と第5の木曜日の担当です。奥田昭先生はご自分で作詞された演歌ゴスペルを捧げるだけにとどまらず、他の教会の方々に招待して証しをたくさん聞かせてくださいます。寝ても覚めてもこの伝道集会に参加する迷える羊たちの事を考えて準備してくださっている熱心さが伝わります。また賛美のご奉仕、配膳と片づけのご奉仕も定期的に来てくださいます。どの方も心から「愛の家」に集う兄弟姉妹を愛してくださり、この働きの大切さをご理解くださって協力くださいます。参加している兄弟たちも賛美や説教メッセージに応えるべく、同意の時には手を挙げたり、目を上げて話を聴いたり、直接コメントを残される方もいらっしゃいます。蒔かれている種が芽を出し実りを見ることを楽しみにしています。



炊き出しに並ぶ人たち



冬の衣類と日用品配り



木曜、日曜の礼拝と伝道集会

## 金曜炊き出し会・衣類提供会

炊き出し会場の西成公園が、去年の台風21号によって大きな被害を受けたことは前々回、前回にもご報告した通りですが、あれから一年、公園の大きな工事は大体終わり、静けさを取り戻したように思います。今年も多くの方々が炊き出しをお手伝い下さり、失業者の方たちに心と体の糧を配ってくださいました。特に今年も大阪女学院の学生さんたちが来てくださり、年々増える学生さんたちで会場はいっぱいに。奉仕者のほうが多かったのではないかと印象です。あいにくの雨で予定していた衣類提供は中止になってしまい、私たちも失業者の皆さんも残念だったのですが、西成の近くに住んでいても、失業者の方たちの置かれている状況を知らない人が多いので、学生さんたちに「愛の家」の活動から多くを学んでいただき、弱者にやさしい社会を創り出す担い手となっていただきたいと思います。

## 聖書勉強会

入門クラス（担当：平野真希執事）は、約 9 名が参加しました。「新しい神の家族」という例年のテーマですが、初めて聖書勉強会に参加する兄弟たちには少し難しく感じられ、挑戦する意気込みがないとできないという様子が見受けられました。しかし、だれでも初めは理解できないしついでいくのも難しい、「聞くことにより信仰は始まるから、怖気ないで参加して聞き続けてくださいね」と励まし最後まで完走できそうです。

信徒クラス（担当：金鐘賢牧師）は、「内的治癒」と題して取り組みました。信徒となっても「内的な傷（特に幼少期に受けた傷）」によって自分も隣人をも傷つけてしまうので、この学びが今必要だと選ばれたと思います。この学びを通して兄弟たちの心の傷が癒され、隣人たちを主に導ける祝福の管として用いられる事を願います。

## 教会創立22周年 記念礼拝

特別賛美ゲストはオペラ歌手であり牧師夫人でもいらっしゃる野田朋香姉妹をお迎えしました。神様を見上げて全力で誉め讃える勇ましさと確信に満ちたその姿その声量、それとは逆に話す時はとてもやさしく包み込むような雰囲気流れます。人生の苦難の中で神と出逢い、賛美や御言葉にどれだけ励まされて今があるか、というお証しをされました。「私には歌だけ、私には祈りだけ、この歌が響きますように、この祈りが届きますように」主を慕い求める野田朋香姉妹から奏でる賛美を通して、22回目の創立記念礼拝をお捧げできました事を心から主に感謝します。



## 越冬夜回り

今年も早いもので残り1～2か月となりました。暑い夏が過ぎ、秋に入ろうとした途端朝晩は冷え込みました。新今宮駅前に建つ「労働センター」は今年の3月31日をもって閉鎖するという状況に反対運動をする人々が今もセンターを取り囲んで昼夜を過ごしています。長年苦楽を過ごしてきた自分自身を映し出す建物を取られたくないという思いが強いのでしょう。浪速教会の兄弟姉妹たちは彼らの安否を気遣ってお握りと熱々のお味噌汁を毎週金曜日の夜に配っています。

## 第2回浪速教会バザー

地域の人々との交流をと昨年から始めたバザー、1か月間集中して準備をしました。今年は子どもたちが来て遊んだり、お母さんたちがホッと一息つける「安らぎの場」をイメージしました。そしてチラシだけでも見て教会の存在を知ってもらおうと広報活動にも力を入れました。チラシを配り始めてからほぼ毎日「教会員でなくても参加できますか？」という問い合わせが続きました。ある子供たちは下見にまで来ました。結果、昨年の何倍もの方々が参加してくださり、息をつく間もない程に大忙しでした。うれしい叫びでした。遊ぶみんなの笑顔、韓国料理をおいしいと言って頬張ってくれる笑顔、みんな愛する地域の人々です。みんな神様の愛する人々です。人生の困難に立つとき、頼れる場所として教会を思い出してくれたらと祈りを込めます。



## 奉仕者の声

### 『いそいそと』

朴 栄子 牧師  
(在日大韓基督教会 豊中第一復興教会)

「愛の家」での礼拝奉仕は、2006年9月から始め、かれこれ13年、数え間違いでなければ説教回数は今年10月で134回になります。

2006年春に召天した父・朴昌煥牧師は8年ほど奉仕していました。それを超える年月を続けることが出来たのは、神さまの恵みです。

アボジ(韓国語で「父」の意味)は大好きだった「愛の家」が発展することを心から願い、昨年召天された久保賢太郎先生を誘って大ファンにさせ、毎月楽しみに奉仕に通っていました。

説教者は説教した後、全力疾走したように疲れるものです。行きはアボジが、帰りはオモニ(韓国語で「母」の意

味)が運転をして、毎月いそいそと通い、朝出かけて帰りは午後3時かもっと遅くなる時もあったと思います。

えらい長いなあ、何がそんなに楽しいのかなあと思っていたら、わたしもいつの間にかあちこちで「愛の家」を紹介し、金鐘賢先生と姜貞淑先生の自慢をするサポーターになっていました。

元気だったオモニは4年ほど前から認知症になり、以前のようなシャッキリした姿や、年季の入った信仰者の祈りは見聞き出来なくなりました。しかし家では食前の祈りの度に、必ず「道を歩いて食べ物を探している人を助けてください」と言うのです。

アボジと一緒に8年、わたしと一緒に13年、合計21年も「愛の家」に通い、いつも野宿者の方々を思うようになったのでしょう。日付も曜日もわからないオモニですが、「明日は浪速教会に行く日だよ」と言うと「やったあ!」と喜びます。

3年ほど前からは、フルート演奏の呉蓮実さんが時々一緒に奉仕してくれるようになりました。わたしがピアノ伴奏をし、二人で演奏し

たレパートリーが増えて来て、せっかくだからということで今年6月には熊本ボランティアツアーに行き、仮設住宅でフルーツとピアノ、落語で奉仕させていただきました。

受けた恵みといえば、2011年春からプロの落語家の手ほどきを受けて、アマチュア落語家を8年ほど続けています。それも浪速教会に来る”おっちゃん”たちのおかげです。



ある程度聖書知識のある人前提の、教会式の話し方では通じないし、堅い話ではみんな寝てしまうし、何とか興味を持ってもらえないかと考えて、習い始めたのです。

「受けるより与えるほうが幸いである」と聖書に書かれていますが、「愛の家」での小さな奉仕を続けてきて、得したことばかりです。

毎月毎月100名ものノンクリスチャンに説教をする機会というのは、そうそう得られるものではありません。わかりやすく、ストレートに福音を語るトレーニングになったのは言うまでもありません。

体調を崩したりして、やむを得ずお休みする月もありますが、そうするとどうも調子が出ないのです。金先生ご夫妻と教会の家族たち、また敬愛する”おっちゃん”たちの顔を見ないといかんなあと反省しきりです。

「愛の家」での楽しい奉仕に、これからもオモニと二人いそいそと出てきたいと思います。



## 奉仕者の声

### 『北の国から居場所を求めて』

丘 圭希 聖徒  
(浪速教会 信徒)

ボクは昭和20年代中頃に北海道の札幌市内で生まれました。父親はサラリーマンで“ただの酔っ払い”“だった事を覚えています。何かあれば口よりも先に手が出てくる人でした。母親に手を挙げるのを当時3～4歳だった自分が止めに入っていた記憶があります。母親は日本赤十字社の看護婦でした。姉弟は姉2人とボクです。僕は母親に似てやさしいけど気は強い性格です。家族はもう誰も残っていません。みんな死んでしまったと思います。

ボクは北海道の東海大付属高校に通っていました。1972年に年に行われた札幌オリンピックのスキージャンプの強化選手として練習に励んでいました。その前の年の71年1月のプレオリンピック本番前の練習の時でした。



調子がいいな、120～130mくらいは行くなと思って跳んでいました。90m辺りに来たときに突然強風にあおられて落下し、気づいたら病院の中で全身骨折していました。そして1年くらい入院していました。その後、ジャンプへ

の恐怖心はなかったけれど、膝と腰をやられてしまっていたので戻ることはしませんでした。その代わり空手を始めました。高校を卒業して東海大学に進み、海洋学部に入りました。潜れるけれど泳げない、これがボクです。しかももう泳ぎたくない。海はコリコリだ、空の方がまだ良いです。ボクは大学まで卒業したけれど、高校・大学の学費や生活費はパチンコで自分で稼いでました。家にも2万円程生活費を入れていました。でも、家にはあまり帰らなかったです。たまに家の方へ行き、灯りがついているかどうかだけ確かめて安否確認をしてました。

大学を卒業後、雪印乳業で働いていた父が誘って来て牛乳製造の工場に入社させてもらいました。入社後、組合の執行部の総務や広報もして活動したので、35才の時に東京の工場へ左遷されました。その後40才になって退職しました。当時、希望退職という形で3千人の社員たちが首切りに遭いました。その後、一度

はやってみたいと思っていた札幌のすすきので10人程が入るといっばいになるクラブを構えました。初めから3年で辞めると決めていたので、3年後、解体の仕事に就きました。ブレーカーの20番、30番をドドドと言わせながら4年くらい勤めたある日、手がやけに冷たいなと思ってみたら血の気が引いて真っ白でした。「拍動病」でした。その場ですぐに仕事を止めました。それから鳶や解体の仕事5年くらいしつつ、1年は休んで日本全国を旅して周り、名古屋に渡り3年くらいで大阪へ来ました。それが48才くらいでした。初めは難波で遊び、夜はそこら辺で寝ていました。ある夜、現場帰りのおっちゃんが寝てるボクに「温かい酒があるから飲みな」と言ってくれました。ボクは「ここら辺で他に良いところあるかな？」と聞くと新今宮に行くと言われ労働センターがあるからと教えてくれたので行っていました。それが12月のクリスマスの日でした。新今宮を降りてみたら、労働センターの周りに沢山の人が寝ていて「あらー、すごいなー」と驚きながら1周しました。

浪速教会に初めて来たのは翌年の5月頃です。知人に一緒に行ってほしいと無理矢理に頼まれて来ました。釜には色々な教会があるけど他の教会とは全く違うなという印象を受けました。食べ物全然違う！でも、食べ物よりも礼拝の話をもっと聞きたかったから、仕事がない日は教会に通うようになりました。実はスキージャンプで怪我をした時に入院したのはカトリック系の「天使病院」でした。そこの婦長であるシスターが毎日、朝・昼・晩と部屋に見舞いに来てくれました。婦長が休みの日は神父や修道士・系列の大学生が来ては聖書の話をしてくれました。本当にありがたくて、おかげでこちらは休む暇がなく、逃げたくても逃げられない、全身骨折ですから(苦笑)。その時からイエス様を信じていました。しかし、箴言などを通してのメッセージは浪速教会で初めて聞いたので新鮮でした。そんな訳で2012年の冬に聖書勉強会に参加、2013年イースターに洗礼を受け、今年の8月には膝の大怪我により浪速教会の福祉部屋に引っ越してきました。今は毎日教会で神様のために奉仕をする、教会をキレイにしたい、全力で何事もしたい！その想いでいます。

一生懸命やって、失敗してもいい、また一からやり直せばどこで失敗したか分かるから。悪い所を直していけば、良い方向へと向かうので。ひとつの目標をもって最後までやり遂げましょう！



【特集 「愛の家」の恩人⑦

朴 珍烈 牧師

(KCCJ 平野教会 名誉牧師)



「愛の家」の恩人を忘れないで覚え感謝するため、前回まで運営委員として活躍して下さった5人の先生方の貢献を書き記しました。これからは木曜伝道集会に来られて、説教の奉仕をして下さった方や今も奉仕して下さっている先生方を覚えて書かせていただきたいと思います。年齢順に書いていくことにしました。

朴珍烈牧師任は平野教会を引退してから私達の木曜伝道集会の礼拝に来られ、説教の奉仕をしてくださいました。

朴牧師任は長年、信徒として自分の職業を持ちながら教会に仕えておられる途中、主に召され韓国から日本に宣教師として派遣され、奈良教会を開拓し長年開拓伝道を担って来られた方でした。平野教会に移られてから引退まで牧会に専念し救霊の精神に燃え、熱心に伝道活動をして来られた先生として多くの後輩に尊敬されています。

私は開拓伝道時から長年に渡り先生と交わる機会が与えられ、励ましていただき助けていただきました。特に教会の行政事務について教えて頂いたことを未だに覚えています。木曜伝道集会の説教者がいなくて先生に御願いしたら快く受け入れて下さり、毎月第一の木曜日に来られ説教の奉仕を病気で入院されるまで誠実に担われました。白血病という主な病気を患い病院に入院されていても感染を与える恐れがあり、お見舞いに行けなくて電話を通して安否確認をしました。するといつも喜び感謝し、生と死を乗り越えて全て主に委ね、平和と希望に満ちておられる様子に感心しました。一時病気が回復され木曜伝道集会の説教に戻りましたが再び体調が悪くなり、今は入退院を繰り返して信仰の道を走り続けておられます。私達「愛の家」は全身全霊で体が弱くても最後まで福音を宣べ伝えようとされている先生の救霊の精神と情熱の後を引き継いで伝道に励みたいです。



「愛の家」会計決算報告書(2019.4.1-10.31)

収入	19 予算	19.4-10
定期後援会	1,000,000	553,100
一般後援会	1,700,000	627,207
クリスマス献金	1,200,000	0
食事献金	400,000	217,200
総会支援金	300,000	0
地方会支援金	450,000	245,000
御米献金	260,000	36,000
<b>小計</b>	<b>5,310,000</b>	<b>1,678,504</b>
繰越金	761,138	1,720,072
<b>合計</b>	<b>6,071,138</b>	<b>3,398,576</b>

支出	19 予算	19.4-10
事務・備品・印刷費	280,000	207,649
交通費	100,000	5,264
車両維持費	200,000	95,797
奉仕者支援金	1,200,000	46,604
研修費	100,000	0
御米代	600,000	293,307
副食費	2,000,000	1,179,318
会議費	30,000	0
発送費	120,000	38,895
建築積立金	1,000,000	1,000,000
救済費	60,000	0
修理施設費・予備費	381,138	80,150
<b>小計</b>	<b>6,701,138</b>	<b>2,946,984</b>
繰越金	-	451,592
<b>合計</b>	<b>6,701,138</b>	<b>3,398,576</b>

「愛の家」会計総合計報告書(2019.1.1-10.31)

収入	19 予算	2019.1-10
定期後援会	1,000,000	770,600
一般後援会	1,700,000	1,138,036
クリスマス献金	1,200,000	365,339
食事献金	400,000	246,200
総会支援金	300,000	300,000
地方会支援金	450,000	380,000
御米献金	260,000	58,500
<b>小計</b>	<b>5,310,000</b>	<b>3,258,675</b>
繰越金	761,138	761,138
<b>合計</b>	<b>6,071,138</b>	<b>4,019,813</b>

支出	19 予算	2019.1-10
事務・備品・印刷費	280,000	247,188
交通費	100,000	6,764
車両維持費	200,000	117,433
奉仕者支援金	1,200,000	92,582
研修費	100,000	0
御米代	600,000	338,307
副食費	2,000,000	1,629,292
会議費	30,000	0
発送費	120,000	45,870
建築積立金	1,000,000	1,000,000
救済費	60,000	0
修理施設費・予備費	381,138	95,870
<b>小計</b>	<b>6,071,138</b>	<b>3,568,221</b>
繰越金	-	451,592
<b>合計</b>	<b>6,071,138</b>	<b>4,019,813</b>

別帳簿会計「車両購入積立金」:繰越金 1,000,068 円  
車両購入諸費用 945,418 円、残高全額をガソリン代として使った。



## 路上生活者支援のための クリスマス献金のお願い

御子イエスのお誕生を待ち望む季節となりました。支援者の皆様におかれましては、ますますご活躍のこととお喜び申し上げます。また、平素より私ども、浪速教会「愛の家」の活動へのご理解、ご協力を賜り、まことに感謝申し上げます。

この一年も主の導きにより、浪速教会「愛の家」は皆様からの多くの愛を受け、またその愛を分かち合う活動ができましたことを心より感謝申し上げます。また昨年の台風21号による被害や支援については前々回、前回の愛の家ニュースでお伝えした次第であります。関西地方の被害が癒されつつあった矢先、今年の子葉を中心とする関東地方の自然災害については、被災なされた方々に、この場を借りて心よりお見舞い申し上げます。私たち「愛の家」の家族も、去年大変な体験をしたから、あの時助けていただいたから、という思いで祈り、災害支援の為に私たちにできることは何だろうかと模索し、活動に移したいと考えております。

また今年も、越冬対策夜回りを11月から始めております。だんだんと風の冷たさが身にしみてくるこの季節、路上生活を余儀なくされている西成の仲間を思うと胸が痛くなります。今年も皆が無事に冬を乗り越えていくことができますように、お祈りください。また一人でも多くの西成の仲間が、主に出会い、主に新たにされて、残りの人生を主と共に歩む決心へと導かれますよう、お祈りくださいますよう重ねてお願い申し上げます。

現在、私ども「愛の家」は炊き出しを一週間に3回行っております。金曜炊き出しには毎回約150人～250人、日曜礼拝や木曜集会にも常時100人近くの路上生活者が温かい食事を求めて並びます。炊き出しの実際の経費として、毎週57,000円を支出しております。

(お米50kg・12,000円、副食費45,000円、合計57,000円)

力なく、小さな赤ちゃんとして私たちのもとへとおいでくださった主イエス様のお誕生を喜びこのとき。路上生活を強いられる方々に、御子イエスのお誕生の喜びと愛と希望を届けることができますように、クリスマス献金のご協力をよろしくお願い申し上げます。

「愛の家」事業：金曜炊き出し、木曜集会&日曜礼拝と食事提供、散髪奉仕、共同生活、聖書勉強会、福祉相談、福祉館運営、越冬夜間パトロール、生活用品収集分配

**2019年度クリスマス献金目標額：100万円**

◇ 定期、一般後援者募集

一般後援：1000円以上、定期後援：毎月1000円以上

◇ 衣類、生活用品、毛布、寝袋、鞆、靴、カイロ、食材、お米を送って下さい。

郵便振替：00930-0-299392 在日大韓基督教会 浪速教会

送り先：〒557-0061 大阪市西成区北津守3-2-3浪速教会「愛の家」

Tel 06-6561-4712、6562-0109、Fax 6561-4709

E-mail:ainoie@msn.com ホームページ：www.ainoie.org

2019年12月



在日大韓基督教会 浪速教会「愛の家」

金 鐘 賢 牧師

## 「愛の家」の人々

### 『愛の家の 支援者の皆さま』

「自分が何に献金し支援してきたのか、それが実際にこの目で見て体験できてとても良かった」

この一言がとても印象的でした。これはいつも教団同士や牧師同士では交流があり支援してくださっているけれど、「愛の家」には初めて参加されたF先生がおっしゃられた言葉です。それを聞いた時に「その通りだ」と何か気づかされた思いでした。ご支援してくださる方は国内は北海道から沖縄まで、また海外にまでいらっしゃいます。なかなか足を運んで実情を把握できないのに、何をどうやって支援するか、また支援金を送ったところでどのように使っているのかと不思議に思ったり不安になられるのは当然の事です。

このニュースレターを通してなるべく半年間にあった事などをお伝えしていますが、実際に現場に立つのは全然違うのだと痛感しました。同時に「良かった」の言葉に「安堵」の気持ちも受け取れましたので、常日頃から「徹底的に節約と無駄なし、でも丁寧な質は高く！」を口を酸っぱくしながら教え自ら実行している金先生の元で活動が行われていますので、スタッフも日々精進しながら連係プレーで活動しています。支援者の皆さまが来られて「安心」できる活動を西成の兄弟・姉妹たちに提供できますよう、これからも頑張ってみます。また、どなたでも厨房やお掃除、賛美等のご奉仕、また見学に関心がありましたらご連絡ください。



#### 献金者お名前(敬称略・順不同)

(2019年4月1日～2019年10月31日)

##### ◆ 定期後援金

グッド・サマリタン・チャーチ 大阪淡路集会・洲本チャペル、大阪東南教会、在日大韓基督教会、在日大韓基督教会関西地方会、山住達樹、石井洋二、河内常男、寺岡孝、古川富也、新国久男、川島美恵子、当重茜、朴栄子、呉蓮実、金景淑、吉村俊郎、金鐘賢、大木正典、金英姫、平野竜一・真希、佐々木勝彦、匿名

##### ◆ 一般後援金

チョンジュボクテ教会、大邱忠誠教会、大邱ナムソン教会、ホサナ教会、プチョンウンチョン教会、オンヌリ教会、三一教会、石橋教会賛美フラチーム、スヨン口教会、マサンシングァン教会、大邱ソンアン教会、ソウルサンギン教会、チュサラン教会、浪速教会バザー

野津道代、久保安子、金鐘賢、金森俊徳、神野幸子、橋本、東、重松絢子、関恩恵、山田律子、角野、ジョン・ジョンヒ、佐藤信、崔弘奎、松山、萩原輝男、北村たかみ、橋本博子、村田、匿名

##### ◆ イースター献金

南浦和教会、在日大韓基督教会全国教会女性連合会、神戸布引教会壮年会、京都南部教会、

##### ◆ お米、お米献金

グッド・サマリタン・チャーチ洲本チャペル、徳島教会婦人会、神戸布引教会 壮年会、ぐるり農園、小林勝、匿名

##### ◆ 食材

グッド・サマリタン・チャーチ洲本チャペル、フードバンク大阪、フードバンク関西、ぐるり農園、清水真一・佐代子、匿名

##### ◆ アルミ缶献金

「愛の家」に通う兄弟たち、北津守町の皆さん

##### ◆ 衣類、靴、生活用品

グッド・サマリタン・チャーチ、京都教会、シオン合唱団、ホサナ教会、平田健二、川島美恵子、コーリ・ギースブレクト、

ありがとう  
ございます

新しい炊き出し用車両  
中古なのにピカピカで  
教会を明るくしてくれます



発行責任者 金鐘賢

〒557-0061 大阪市西成区北津守 3-2-3

浪速教会「愛の家」内

TEL 06-6561-4712(教会)

E-mail: ainoie@msn.com

ホームページ: [www.ainoie.org](http://www.ainoie.org)

郵便振替口座: 在日大韓基督教会浪速教会

00930-0-299392